

Info for Wood Export  
海外市場情報



Vol. 2, No.36, 2007

2007年12月18日発行

韓国における木造住宅の認識と直面する課題

II、韓国における木造住宅に関する嗜好

Kang 氏らの「木造住宅の需要に及ぶ影響要素に関する研究」によると、韓国の消費者が一戸建てを購入、または新築するときを選ぶ住宅様式は、ログハウスが 20.5%、欧米風木造が 22.3%で合わせて全体の 42.8%を占める。また、黄土屋も 32.3%と高い人気である。年齢別では、30 歳未満は欧米風木造に高い関心があり、40 代は黄土屋、ログハウスと欧米風木造などの順となっている。50 代以上は黄土屋、ログハウスなどの順に高い関心が集まり、年齢による好みの違いが見られる(表 1)。

表 1 年齢別選択住宅の類別 (単位：%)

区分	39 歳以下	40-49	50 歳以上	全体
ログハウス	1.8	11.8	6.8	20.5
欧米風木造	7.3	11.8	3.2	22.3
韓屋 <sup>注1</sup>	1.4	6.4	4.5	12.3
黄土屋	2.7	14.5	15.0	32.3
煙瓦屋	1.8	5.5	5.5	12.7
合計	-	-	-	100

資料：Kang, Man-Ho, Joo, Seok-Joong 「木造住宅の需要に及ぶ影響要素に関する研究」大韓建築学会論文集 23(1):21-28(2007年)

注 1：韓屋（ハンオク）とは、韓国の独特な風土とさまざまな社会環境を受けながら、長い歳月にわたって作られてきた韓国の伝統的な家屋のこと。基本的に、自然との調和を重視する風水や五方の考え方を取り入れ、どの家も自然に逆らわない構造と配置を備えている。そのため、家の材料も自然から多く得られる木や黄土、土、石などの環境に優しい素材が使われている。韓屋の長所は、①優れた空間構造②生活しやすい機能性③視覚で楽しめる美しさ、の3つに要約されるといわれる。（出所：www.koreanculture.jp）

木造住宅を建てる地域選択について、調査対象者の 70.2%が「都市近郊の田園地域」と答えた。以降、大都市周辺の衛星都市が 11.1%、山村地域が 9.9%、農村地域が 6.9%と続く（表 2）。

表 2 木造住宅建設の希望エリア

区分	割合 (%)
大都市内	1.3
大都市の周辺都市	11.1
都市近郊の田園地域	70.2
農村地域	6.9
山村地域	9.9
その他	0.5
合計	100

資料：国立山林科学院「木造住宅に関する消費者の嗜好調査」（2004年）

木造住宅の広さの希望については、30坪が 26.1%、40坪が 17.7%となっている。つまり、60.1%もの多くの人が 30坪 - 40坪の広さを望んでいることに集中している（表 3）。

表 3 木造住宅建設の希望面積

区分	割合 (%)
15 坪未満	0.9
20 坪	5.1
25 坪	13.1
30 坪	26.1
35 坪	16.3
40 坪	17.7
45 坪	8.7
50 坪以上	12.0
合計	100

資料：国立山林科学院「木造住宅に関する消費者の嗜好調査」（2004 年）

（本稿は大韓民国忠南大学校の金 世彬教授、郭 昶鎬博士からの原稿に基づき編集した。）